

営農情報

第93号平成22年8月26日発行

(水稲)

1 生育状況

梅雨明けが早く、その後高温・多照であったため、茎数は確保され、ヒノヒカリの出穂期は平年並と予想されます。一方、ヒノヒカリより晩生の品種では、生育の遅れが見られ、出穂期は平年より2～3日遅れる見込みです。

2 水管理

穂ばらみ期～穂揃い期は、水を最も必要とする時期なので水を溜めます。また、高温障害対策として、穂揃い後2週間は、水のかけ流しを行いほ場内の温度を下げましょう。その後は田面が白く乾かないよう、間断かん水を行って健全な根を保ちましょう。

3 病虫害防除

- (1) お盆頃からコブノメイガによる食害が目立ち始め、成虫(ガ)も多く飛んでいます。
- (2) 秋ウンカは、病虫害防除所の調査によると、昨年よりやや多くなっており、坪枯れの恐れがあります。特に、9月10日以降は、田まわりを十分行き、株元のウンカの状況に注意しましょう。
- (3) 基本防除は、下表のとおり、出穂直前～出穂期に行います。ただし、コブノメイガの被害が著しい晩生品種は、必要に応じトレボンやロムダンなどで補正防除を行います。
- (4) カメムシ類による斑点米が等級低下の原因になっています。補正防除として、出穂10日後を目安に、キラップ(粉剤、フロアブル)を散布しましょう。

| 品種 | 基本防除 | 薬剤 | 使用量 |
|-------------------------|----------|----------------|---------|
| ヒノヒカリ | 8月28～31日 | ビームトレモンセレン粉剤DL | 4kg/10a |
| | | ブラシフロアブル | 1000倍 |
| ニシホマレ あきさやか ヒヨクモチ | 9月1日～9日 | トレボン乳剤 | 2000倍 |
| | | モンカットフロアブル | 1000倍 |

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!